

2024年度第1回放送番組審議会 議事録

会 議 名	2024年度 第1回 放送番組審議会
日 時	令和7年3月21日(金) 18:00 ~ 18:50
場 所	竹原商工会議所201会議室
出 席 者	委 員 会 : 宮原委員長・森木副委員長・有田委員・柄崎委員・國兼委員 豊政委員・用田委員・吉近委員・和久利委員 タ ネット : 近藤常務取締役・吉原取締役(制作部部長)・加藤制作部担当 以上 12名

内 容

冒頭、近藤取締役より挨拶があった。
宮原委員長の挨拶に続いて議事へ進行した。

議 事

1) 審議テーマ パリ2024パラリンピック ゴールボール男子日本代表で 金メダルを獲得！田口侑治選手×タネットスペシャル対談

制作部部長(取締役) 吉原より番組企画の説明。
制作部担当者 加藤より企画制作の経緯やコンセプトについて説明。放送分のVTRをダイジェスト放映。
その後、審議委員より以下の意見や感想が出された。

- しっかり拝見しました。結論から言うと素晴らしい出来栄だったと思う。
今までのタネットの番組の中で一番刺さった。特に坂井さんのインタビュー、田口さんの話を上手に引き出しているように感じた。妻と2回ほど見たが、お互いに良かったと言っていた。
違う視点で言うと、実はパラリンピックに興味を持って見ていなかったが、地元から金メダリストが出たというインパクト、そして障害についても改めて興味を持った。
竹原出身の方などで、このような形のインタビュー番組がまたあったら視聴者も楽しみなのでは。
- 今回の対談番組は良かった。2人が自然体で見てる方も自然に話が入ってくるというか堅苦しくなく、ほのぼのした対談だった。
障害の網膜色素変性症について、画面での表現・説明がとても良かった。
分からない人もたくさんいると思うので、「視野がこう見えるんだな」と、分かりやすかった。
成人式のアドリブトーク、田口さんの当時(2011年)の映像が出てきた事も良かった。
竹原出身で有名な方がいれば(浜田省吾など)取材してみてもは？と思っていた。

(タネット:タネットに開局前で未放送、資料として撮影した映像を保存していた。)

- とても爽やかな対談で田口選手の人柄を引き出しているというか、このような対談番組ができるならもっと色々な方の企画ができるなと思った。
「難しいからのめり込んで挑戦したい」と言っていたが、つらいこともあったと思うが明るく話してくれていて非常に爽やかな感じがした。
先日のパラアスリートの講演も良かったが、障害を抱えて頑張る姿、生き方を聞くとすごく心が動く。
タネットも進化しているので良い作品が出来ていると思った。

- ゴールボールの田口選手が金メダルを取った事を知らなくて、番組を見て初めて知った。出演2人の相性が抜群で、最初からテンションMAXという感じすごい。対談番組を作る時の計画は？

(タネット:先方に合わせたスケジュールで1月に撮影。過去・現在・未来の構成で流れを作った。)

ゴールボールの試合をYouTubeで見ると、ボールを投げ合う前にホーン(合図)が鳴ると会場の全員静かになる。変な音を出すとペナルティがある。それが競技の特徴だと思う。五感を使って感じるのだから余分な音があれば聞こえない。見ていてボールのバウンドする音はマイクが拾って聞こえるが、ボール中の鈴の音は聞こえなかった。そういう「音」に関する事が少なかったように思うので、もう少し入れれば良かったのでは。とんどの作り方など、記録として残る映像、将来へ伝える映像を無くなる前に撮れたら良いのでは。

- 田口選手は地元大乘の出身で初めて金メダルにさわりました。さわった皆が重たいと言っていた。3人に映像を見てもらったが、全員良いの評価。その中で、最近のテレビは早口の傾向があるが、MCのテンポが良かった、欲を言えば田口選手の親友や恩師のコメントがあればもっと親しみやすかったかも、地元としては晴れがましいが自分の関心が薄かった事が恥ずかしかった、などの意見があった。その他番組に対して、津軽三味線の放送(2011年の映像)を流していたが懐かしく思った。大乘協働のまちづくりネットワークは、平成23年にスタートした。タネットも平成23年からなので同期生。この三味線のライブがタネットとしても初めての(大きな音楽イベント収録)映像ではなかったか。
- 職員で田口選手と同級生の子が2人いる。北部は田口選手を知らない方が多かったが、アンテナをはっておくべきだったと恥ずかしく思った。内容は皆さんが言ったように民放等に出ても誇れるもの、構成含めて30分でも足りない位でもう少し深堀りできる内容とキャラクターだったと思う。これだけポテンシャルあるコンテンツがあるという事なので、竹原の街には企業、タッピースの企業紹介があったが、開発秘話など人にフォーカスを当てればもっと魅力ある番組ができるのでは。
- 皆さんの言っていた通り、素晴らしい番組だったと思う。特に良かったのが坂井アナの喋り口調と田口さんの受け答えで、初めてこの番組を見た人もスッと入ってくるのでは。毎日生放送があると思うが、イベントなど収録、編集を毎日繰り返していて大変な作業だと思う。今回の企画のように進めるのは大変だと思うが、地域の視聴者へのイベント紹介などもどんなものなのか、どういう経緯でするのか、もう少し付け加える事が必要なのではないか。
- テロップの入れ方がすごく良くて、白文字に赤影が田口さんで、ピンクの影が坂井さん、どちらが話したのか分かるようになっている事と、田口さんが「あれなんですけど・・・」と表現していることも「あれ」が何を指しているのかテロップで文字として起きていて、そこが良かった。田口さんが伝えたい事に関しては赤の塗りつぶしに白字で抜いているので、対談の文字起こしとは別の形で出てきて、なおかつ少しずつ(文字が)大きくなる形で視覚効果が入っていたので分かりやすかった。民放の一部の番組に比べてもタネットの方が分かりやすくなっているなと思った。

競技説明が入っていたこと、網膜色素変性症という病気にふれていたことも良かったが、一つ入れて欲しかったのは田口さんから「インクルーシブ」というキーワードが出てきたがインクルーシブというのは何か？というのがなかったですね。

(タネット:テロップで2行しか説明できず悔いが残っている。そのまま次のテーマに行ってしまった。)

- インクルーシブとは、元々障害のある子どもと障害のない子を同じ教室で授業を受けられるようにしようというのが教育の世界であって、それがインテグレーションと言いますが、実際一緒にすると学級崩壊のような状態になってしまう事がある。
なので障害のある子にはちゃんとその子に適した適切な支援を、その子の横に寄り添う形で一緒にしよう、としたのがインクルーシブ。それを社会に拡大投影していくのがソーシャルインクルージョン。私たちはソーシャルインクルージョンを障害のある人も無い人も老いも若きも皆が入り混じってという社会をこの竹原市で追い求めていこうとする時、とても大事なキーワードを発して下さったが、そこが置いていかれたなと思って、またどこかで表記してもらえれば良いなと思っています。
(その後、豊田高校で見たKAMONケーブルの感想あり)
東日本大震災の後、竹原市民館で原田真二さんのチャリティーコンサートをして翌日に大久野島ロケをした事を覚えていますか？ その映像があることで、竹原市民が震災に対して何もしなかったわけではなく被災地にお金をお届けしているという事実がある。こういった映像も再放送すれば良いのでは。
- 今日私や近藤常務、他何人かでタネットのあり方のような事を話していたが、今日の審議会やタネットの取り組みを社長へ報告しないといけないなと、良い意味で見方・感じ方が参考になりました。忘れてはいけないのが、タネットの重要な一つは「防災」だったんです。
災害が起きて情報が不足する中、どう伝えていくのか。
今日の番組(審議会)の内容で社員が勇気づけられると思う。
私自身もいい勉強になりました。ありがとうございました。

吉原制作部長より本日の御礼後、タネットは「地域のことを地域に伝えること」
そして「記録」として残すことが大切である、今後とも皆さまの御協力お願い致しますと挨拶があった。

最後に近藤常務より、タネットの役割とは何か、竹原愛、地元応援団、
地域で頑張っている方の活動が高齢化により維持できなくなる、そういった時にタネットの撮影で
「来年も頑張ろう」と思ってもらう事が我々の使命のひとつではないかと社員といつも話している。
本日はありがとうございました。と挨拶、お礼があった。

以上

【本日欠席だった委員より意見・感想】

竹原が誇る金メダリスト田口選手の対談企画は視聴者にとって明るい話題でとても良かった。
各学校の交流など様々な角度から取り上げられていて、田口選手の人となりを知ることができる番組。
最初の放送時、テーマごとに5回に分けられていて視聴する立場からもちょうど良い長さだった。
テロップとイラストを交えた点も良かった。インタビュー内容も多岐に渡り、とても適切だったと思う。
夢に向かって頑張れば叶うことを体現された事がとても伝わり、子どもたちの頑張りにつながって
いくであろうことで、とても良い企画だった。
個人的には小学生の頃から良く知っている田口くんのコミュニケーション能力の大きな成長を
知る事ができ、嬉しいばかりの対談だった。